

特別記事

2014年 年頭所感 ～会員一人ひとりが「動く」年に～

嶺重 慎（会長・京都大学大学院理学研究科）

皆さん、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

ながらく会長職を務めさせていただいてますが、今年はいよいよ最後の年になります。思い返すと、至らなかったことばかり多く、内心忸怩たる思いがあります。最後の年を、次期執行部への引き継ぎも含め、しっかり締めくくっていきたいと思います。

ここ数年、全国各地の支部会にできる限り出席しようと心がけていることは、昨年にも書きました。支部会は、それぞれに独特の色があり、どこに行っても楽しい思いをします。2013年の12月は、久しぶりに近畿支部会に出席しました。嬉しかったのは、59名の出席があり多くのユニークな発表が聴けたこと、京産大、京大、和歌山大、三重大等の学生など、若い人の姿も多く、懇親会もとても盛り上がったことなどです。支部長の中道さん、開催地支部委員の野上さんらのご尽力のおかげです。感謝します。

近畿支部会には、恐らく史上最年少会員の秋元颯太さん（11歳）も、父親をひきつれて参加されました。（親についてきたのではなく、親が子に着いてきての参加でした。）自分で望遠鏡をつくりたい、という結構ハイレベルな会員です。野上さんにした質問は

「どこかで、真空蒸着する装置を借りられませんか？」

だから、尋常ではありません。懇親会も参加でした。このような輪の広がりが、本会の魅力であり楽しみであると実感しました。

さて、4年弱の経験で、何度も痛感したのは、「実行することの難しさ」です。こんなエ

ピソードを思い出しました。とある著名な実業家がインタビューを受けました。

－「あなたにとって、一番難しいことは何でしょうか」

「実行すること。」

－「では、一番たやすいことは何でしょうか」

「人にアドバイスすること。」・・・

なるほど。人に「アドバイス」して、その通りに事が進むと、まるで自分が「実行した」かのように思われて気分がよくなったりするものですが、それは「錯覚」に違いないのです。自ら動かないといけません。みながそれぞれ動いて初めて、何かが始まります。

もう一つ、忘れられないのは、松下幸之助さんのおことば。「知恵あるものは知恵を出せ、知恵なきものは汗を出せ」という社訓をかかげた会社に対して、「こりゃあかん。汗を流さんところで出た知恵なんて、本ものの知恵ではないわな。」

支部会や年会の発表を聞いていて嬉しくなるのは、そのような「汗を流した末の知恵」をたくさん聴けることなんだと納得しました。

さて、多くの人が感じられているように、天文教育普及研究会の今後について、いちばんの課題は「世代交代」でしょう。会社でも30年が一つの節目といわれます。最初の30年は、たちあげた人の努力で何とか継続する。しかし30年して続く世代への交代がうまくいかなければ、組織は勢いを失います。明白なことは、組織をたちあげた世代が、自分たちのつくりあげたものを、そのままそっくり若手に受けついでもらおうとしても、決してうまくいかないことです。もっと若手の発信

に、シニアの人が耳を傾ける土壌が必要に思っています。



図1 痛望遠鏡（渡辺謙仁氏提供）

また支部会の話に戻ります。2013年10月の北海道支部集会で、渡辺謙仁さんが『星のコスプレ☆痛望遠鏡で星を観る会』という題目で報告してくださいました（2013年年会でも発表がありました）。使用する望遠鏡は、「痛（いた）望遠鏡」（図1）。「触ると痛い」望遠鏡ではなくて、「痛車（いたしゃ）」（アニメキャラクターなどの装飾を施した車）[1]をもじったことばだそうです。

彼の講演には相当の刺激があり、支部会最後に行われた少人数にわかれた議論の場でも、多くの方が「最も印象深かった講演」としてあげ、感想が寄せられました。私などには、思いもよらないところで、宇宙や星のネタで盛り上がっている若者達の姿が浮かび上がってきます。

もう一つ、昨年の会合で特に若手の勢いを感じたのは、9月に国立天文台で行ったユニバーサルデザイン天文教育研究会でのこと。病院活動セッションや（聴覚）障害セッションにおける若手の生き生きした発表が目を見ました。

共通しているのは、既存の枠にたちながら、決してそこに安住することなく、時代の流れ

に合わせてさまざまな要素を組み合わせ、独自の文化を築きあげようという、しなやかでかつしたたかな気概でしょう。

最後になりますが、今年は、会員ひとりひとりが、もっと「動く」年にしていただきたいと願っています。何に「動く」かは、人それぞれです。支部会に参加する／発表をする、観望会を主催する／お手伝いをする、個人で／グループで何か新しい活動を始めるなど、いろいろあると思います。

月並みな言い方ですが、一年の計は元旦にあり。今年、何か、始めてみませんか。

私事で恐縮ですが、今、新規のバリアフリー学習教材プロジェクトが2年計画で始まっているので、その中で、今までとは違うバリアフリーのベクトルをもった教材をつくるのが私の今年の課題です。2013年には手話版DVDの製作にとりかかりました。その先どう進めるか、いまだ思案中です。天文教育普及研究会での動きとしても、「若手の会」と連携をとりながら、会の活動に新しい要素を取り入れられないか、ということが課題です。これも思案中であります。

URL

[1] <http://ja.wikipedia.org/wiki/痛車>

「見ていて痛々しい」という意味があるらしい。決して「イタリア製」のもじりではなさそうだ。

嶺重 慎